(陳受 30 第 12 号) 不登校児童生徒への支援と居場所作りを求める要望書	
受理年月日	平成 30 年 11 月 2 日
陳 情 者	光市の不登校児童の事を考え、支える会 実行委員長 原田英幸 NPO法人 チャイルドハウスひなたぼっこ内 不登校支援事業ぽっかぽっか 代表 原田幸子
陳 情 の 要 旨	
<p>文部科学省が行っている問題行動・不登校調査によると、小・中学校における不登校児童生徒の人数は、増加傾向が続いており、全国的にも大きな問題となっております。</p> <p>その要因は、いじめや学校での人間関係、家庭環境など多岐にわたりますが、長期の欠席が原因で社会とのつながりが希薄となり、その結果、卒業後の高校進学や社会人としての成長に大きな悪影響を及ぼす恐れがあります。</p> <p>私たち団体では、こうした状況に苦悩している子どもたちや保護者の不安に寄り添うことが、不登校の子どもたちが学校、社会に復帰できる一歩に繋がると信じて活動を行っておりますが、不登校児童生徒、保護者の声は年々大きく、切実な状況となっております。</p> <p>平成28年9月14日に文部科学省が関係機関に通知した「不登校児童生徒への支援のあり方について(通知)」によると、不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保や中学校卒業後の支援などの様々な支援策が掲げられております。</p> <p>光市においてもこうした状況をふまえられ市内小中学校の不登校の生徒の状況調査を行っていただき、国の通知に沿った不登校児童生徒への充実した支援をお願いするとともに、現在光市に設置されていない「教育支援センター(適応指導教室)」の整備などのご検討をしていただきたいと思います。と要望いたします。</p>	